

OCMA 通信



新年のご挨拶

次期介護保険制度改正最大の焦点
～給付と負担の在り方～

皆様、あけましておめでとうございます。

私事、2019年10月後半以降は東京と大阪の二重生活を過ごしました。今般、社会保障審議会介護保険部会と同介護給付費分科会の臨時委員を拝命し、表記の課題との対応が難事を極めたためといっても過言ではありません。また、この原稿を記載している最中(2019年12月12日)にも日々情勢は刻々と動いています。



20年目に入って安定して国際的な評価も高い我が国の介護保険制度の今後の最大の焦点は、団塊の世代が75歳を迎える2025年、そして団塊ジュニア世代が65歳に到達してくる2040年をどう支えていけるかということになるでしょう。特に高齢化率40%近くになり受給者が増大し、支え手が減少していく中で財源を誰がどう負担して、どの程度の給付負担に調整していくかが最大の課題となっています。社会保障審議会介護保険部会では8月29日から給付と負担の在り方について8つのテーマを出して議論してまいりました。①被保険者受給者範囲、②補足給付、③多床室の室料負担、④ケアマネジメントに関する給付の在り方、⑤軽度者の生活援助サービスに関する給付の在り方、⑥高額介護サービス費、⑦「現役並所得」「一定以上所得」の判断基準、⑧現金給付、です。

これに対応して特に④のケアマネジメントに関する給付の在り方については、日本介護支援専門員協会において審議会での議論(メールマガジンをご参考ください)や各種意見提出を行ってまいりました。しかしながら、本件は前回平成28年度の介護保険部会においてほぼ導入推進多数の方向で審議されていたものを、再度、現行給付の維持を求めるものとしていたため、そのままでは成立してしまう可能性が多分にあったと言えるでしょう。これに対応して、様々な角度から介護保険制度創設時にはなかった役割を整理主張し、また日本介護支援専門員連盟と協力し、政府与党の日本ケアマネジメント推進議員連盟ほか数多くの方々にご理解を求めてまいりました。この場を借りまして御礼申し上げます。

現在、とりまとめでは利用者負担導入は見送られる公算が強くなってきておりますが、しかしながら財源がない中でいかに改善を図っていくかと、今後の持続可能性を含めて、皆様方のご意見を踏まえて将来的な方向性を改めて検討してまいればと思います。

近畿ブロック研究大会 in 大阪が3月に開催されますが、引き続き2021年4月の介護報酬改定等へ向けて進んでいきますので、会員増へ皆様方のご支援よろしくお願いたします。

公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 会長 濱田 和則

支部交流会報告

令和元年度 公益社団法人 大阪介護支援専門員協会支部交流会を令和元年 10 月 26 日（土）に開催、14 時からの 3 時間余り、114 名の会員が出席し盛況のうちに終えることができました。

第Ⅰ部は、「介護制度改正と最近の動向」として、当協会の濱田会長より介護保険に関する最新情報をご講話いただき、出席の会員は熱心に聞き入りました。

第Ⅱ部は、吉村事務局長からの「一般社団法人日本介護支援専門員協会 第 19 回近畿ブロック研究大会 in 大阪」（以下、「研究大会」）についての話で、大会主旨を確認するとともに、成功させるためには今何が必要かということも共有できました。

第Ⅲ部では、「演題発表体験談」を梶山尚也さん（堺市中区支部長）と小出大介さん（茨木市支部長）にお話しいただき、演題発表者を募るための PR の場としました。（演題発表体験談は、皆が興味津々で聞き入った内容になっていますので、次頁に掲載しています。）

その後はグループワークにて、「研究大会を盛り上げるには？」「会員の参加を促進する方法は？」等々について参加者全員で意見交換を行いました。各ブロックで様々な意見が出ましたので、一部をご紹介します。

参加が伸びない理由として考えられる点は、次のような意見です。

- ・研究大会は、一般的にまだまだ知られていないし、参加や発表する事が身近な出来事ではないというところ。
- ・本日の交流会のグループでも 1/3 程度しか、今まで研究大会に参加したことがないという中で、自分も含めて、近畿大会や全国大会に今まで一度も参加したことがないという人が沢山いる。
- ・参加したことがない理由としては、異次元の世界というか、自分が行ってもいい場所なのかなという畏怖の念がある。
- ・参加費が高いので行き難い。
- ・時期的に年度末が多いことから業務的に行き難い。
- ・研究発表をしたり聴くことで、知識を共有したり普遍化していくことが重要だが、対個人とか家族への支援でケアマネジャーとしての仕事が完結していると考えている方がたくさん居るのではないかな。

一方で、参加を促進する提案として、次のような意見が挙げられていました。

- ・SNS を最大限に活用する。（協会のスケールメリットの活用）
- ・支部で前夜祭のようなイベントを企画する。（そこで協会の良さもアピールし、入会を促進する。）
- ・研究大会のバナーのついた FAX 用紙やメールを使う。（宣伝活動）
- ・とにかく広報活動に力を入れる。（研究大会のことに協会入会についてアナウンスする）
- ・法定外研修であることをアピールする。
- ・大阪をテーマにしているので、笑いや楽しみを演出するために芸能人を呼ぶ。屋台（たこ焼き、冷やしアメ等）を出店する。
- ・参加しやすい条件を作る意味では、5 府県を全部回って制覇したら、何らかの特典が得られるようなスタンプラリー方式を企画する。
- ・介護支援専門員の教育カリキュラムの中に、学術発表も取り入れて、資質向上のための意識を持って教育を受けていくということも長期的には必要ではないか。・・・等々。

いろいろな意見の中から、問題や課題も浮かびますが、多数の会員・非会員を参加へ導き、研究大会を盛り上げようという前向きな意見がたくさん出され、実りの多い支部交流会となりました。私たちは皆で協力し合い盛況に開催し、皆で研究大会を成功させましょう。

大阪市旭区支部 池本 孝

支部交流会報告 ～演題発表体験談～

令和元年度 公益社団法人 大阪介護支援専門員協会支部交流会が令和元年 10 月 26 日に開催されました。第Ⅲ部では「演題発表体験談」と題して、梶山尚也支部長（堺市中区支部）と小出大介支部長（茨木市支部）による報告でした。参加者は今後の演題発表の参考にしたいと、熱心に聞き入りました。今後の演題発表者が増えることを予感させるような話でした。

まず、堺市中区支部の梶山支部長からの 3 年前の神戸での第 16 回近畿大会に発表をされた時の体験談の話からでした。中区支部で取り組んできた個別事例を通じた検討会の内容とその地域課題を考える中で地域ケア会議についての行政に対する意見を支部の役員メンバーで取りまとめたものを代表で発表したとのことです。発表は 8 分という短い時間の中で、緊張もあり内容が上手く伝わったか不安もあったけれども、実際に大会で発表する機会を得たことは、非常に自信になったと話されました。また、堺ブロックでは毎年独自の研究大会を開催し、大学の先生を招いて発表や研究の方法と気を付けるポイント等を学んでいることと、近畿大会などの大勢の前での発表の練習の場として活用していきたいと話されていました。今年は 12 月 14 日に開催予定で、堺ブロック研究大会の内容はホームページにも掲載されるとのことです。



次に、茨木支部の小出支部長からは研究発表の意義と全国大会の和歌山大会と滋賀大会で発表をされた時の体験談について、スライドを使ってわかりやすく説明していただきました。

研究発表の意義とは、新たな学術知識を獲得することと、もう一つは得られた知恵を実社会で活用する。つまり、知識・知恵のシェアをすることで、その成果を積極的に発信して議論する。そして、外部から客観的評価を受けて最後に知識を普遍化して、次に繋いで行くことが社会貢献の一端になるのではないのか。また、ケアマネジャーの存在意義が問われている昨今で、ケアマネジャーの実力を上げて技術のボトムアップをすることで社会貢献に繋がり、ケアマネジャー不要論を払拭していくことにもつながるのではないかと熱く語られました。

また、和歌山大会の発表の体験談として、チームで発表をしたが、データの取りまとめと再編集に時間ぎりぎりまで苦労されたとのことで、発表はやはり緊張はあるが、達成感もすごく得られたとの感想でした。滋賀大会での発表では、災害時の備えとして多職種間の顔の見える化ということにおける連携の真価をテーマにしたとのことですが、発表のまとめ方のテクニックとしては、過去の抄録も参考にすること。そして、発表のポイントとしては、①調査検証の報告、②データの見える化、共通言語化、③発表時間の厳守の 3 つを大会発表のヒントとして上げられました。

貴重な二人の体験談を伺って、何やら自分にもやれそうな力が沸き上がってきました。発表の心構えや実際を知ることで発表に対するハードルが少し下がったのではないかと思います。

皆様の方で、近畿大会を一緒に盛り上げて行きましょう！

府民情報発信部 高田 敬子

「一般社団法人日本介護支援専門員協会 第 19 回近畿ブロック研究大会 in 大阪」運営委員会報告

令和 2 年 3 月 28 日（土）・29 日（日）、OMM ビル 2 階にて開催予定の本研究大会（法定外研修指定）の申込は既に受付を開始しており、大阪をはじめ和歌山、京都、兵庫、奈良、滋賀（順不同）と近畿ブロック各支部からも続々と参加申込をいただいています。すでに申込み完了している皆様、ありがとうございます。

今回は、ホームページの検索や会費を振込みに行く時間がない等の事情から未登録の方へ、申込完了の最短方法をご案内いたします。まず、ご自身のスマートフォンをご用意ください。Google（グーグル）・Yahoo（ヤフー）等のサーチエンジンから、大阪介護支援専門員協会のホームページへアクセスすると、トップページにトピックスとして「一般社団法人日本介護支援専門員協会 第 19 回近畿ブロック研究大会 in 大阪」の緑色の表示が出ます。その下の「参加登録・宿泊等受付【東武トップツアーズ】」をクリックします。画面右側の「はじめての申込はここをクリック」をクリックし、表示されているとおりに順番に入力し、マイページの登録を完了します。ここではログインするメールアドレスやパスワードを忘れないようにメモをしておきましょう。マイページ登録後は、参加内容（懇親会、分科会等）の入力をします。金融機関での支払手続きも面倒ですよ。本大会の支払もクレジット払いが可能です。キャッシュレスの時代、カード決済は非常に便利です。以上、早い方では 20 分程度で手続き完了できるかと思います。（個人差あり）

申込み期限は 2 月 14 日（金）と迫っています。当日申込は残念ながら会員であっても割高（事前参加登録 8,000 円、当日参加登録 12,000 円!!）になります。支部で申込みを忘れていないか、声を掛け合いたくさんの仲間と学びを深めましょう。

府民情報発信部 神崎 トモ子

日本介護支援専門員連盟コーナー

日本介護支援専門員連盟では日本介護支援専門員協会との連携のもと、この度日本ケアマネジメント推進議員連盟を 20 年振りに立ち上げることが出来ました。最高顧問に伊吹文明先生、会長に尾辻秀久先生、幹事長に田村憲久先生はじめ現・元厚労大臣はじめ 51 名の衆参両院議員にご参加をいただいております。事務局長の渡嘉敷奈緒美議員には、打合せ、から準備まで本当にお世話になりました。①研修の充実や介護報酬の対応も含め介護支援専門員の専門性と社会的地位の向上②国家資格化と処遇改善③介護支援費の利用者負担導入回避問題④介護支援専門員を取り巻く制度や環境の整備などを中心に申し入れを行いました。議員連盟と協同した活動は今後の我々の将来に大きな福音をもたらすものと確信しております。また、この度、連盟のホームページを新しく致しました。http://jcmr.tremer.jp がアドレスです。まだ、作ったばかりで内容はまだ立派とは言えませんが、今後充実させますので、是非一度覗いて下さい。協会も連盟も会員増強が最も大切で、大きな声を発するにはこれが最大の課題です。皆様方の積極的なご参加をお願い申し上げます。

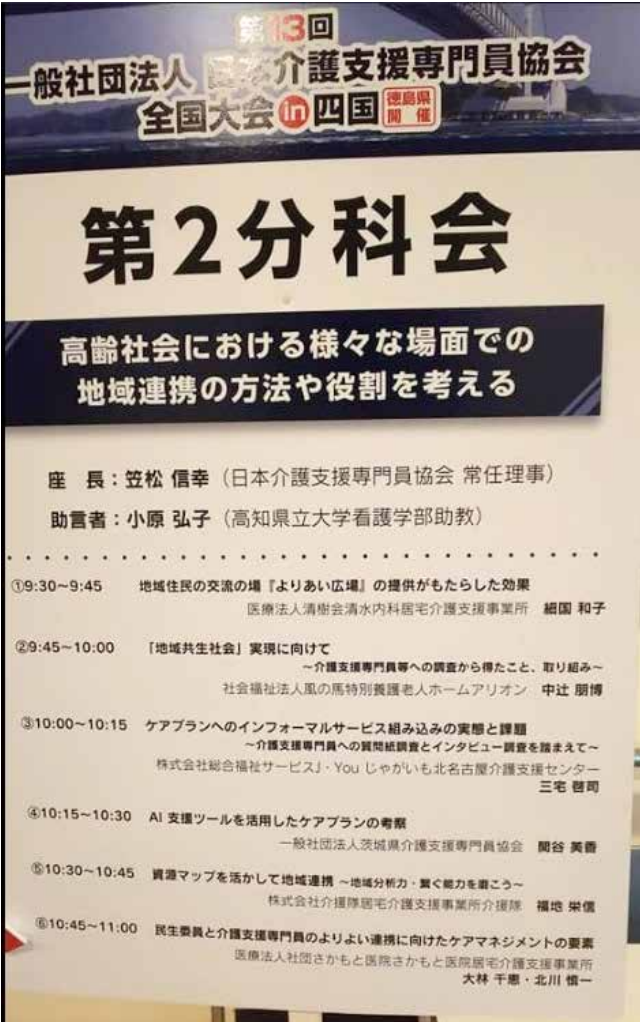
入会金 0 円、年会費 3000 円です。

【連盟事務局】〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-10-8-402 【問合せ電話】072-473-1710 入会申込は、【FAX】093-932-0532 までお願いします。折り返し関係書類をお送りいたします。

研究発表の進め方

近畿圏ブロック研究大会 in 大阪が目前に迫っていますが、演題発表などは自分には無理だとあきらめている方、演題発表をしたいが、どのように進めたらいいかわからないという方のために、今回は、～これだけは知っておきたい！～ 研究発表の勘所について、公益社団法人大阪介護支援専門員協会の中辻副会長に解説をお願いしました。

「今度、近畿大会があるけど、発表せ～へんの？」
「え～っ、なんか大変そう」



研究大会の演題発表、なかなかハードルが高い、と皆さんお感じの様子です。しかしながら、日々の業務を行う中で感じることをテーマにすれば、手が届き易いのでは？ と中辻は考えております。また、研究大会は最新の情報を学べること、他の介護支援専門員の素晴らしい活動や報告を学べる非常に良い機会になります。

『実践者』である皆様の場合、研究テーマが自身の中で自然に生成されるのを待って発表の準備をするか、「発表するんや」と決心(?)してからテーマを考えるのか、どちらでも良いと思います。発表された演題を見ていると、普段の日常の中で感じる素朴な疑問からテーマを抽出しておられると感じます。中辻は 2019 年夏に全国大会で発表させていただきました。演題発表の「ネタ」は、素朴な疑問から生まれました。

- ①「介護保険事業計画や地域福祉計画、専門職として関与すべき」と研修で講師が述べられた。
- ② 居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等の皆さんが関与しているのか、または、内容を把握しているのか？
- ③ では、アンケート調査、面白いのでは？

「知っている」「関与している」との回答が多ければ、それでよし。「知らない」との回答が多ければ、どうすれば良いか、考えれば良い。

アンケート調査、実践事例の考察、事業所の体制など、研究大会では、いくつかのパターンがあります。また、一人で行わずに共同で研究・発表も良いと思います。

まずは、2020 年 3 月に大阪で開催される近畿大会に参加いただき、研究大会は近寄り難いものではなく、介護支援専門員の様々な実践報告を学ぶことができる、身近なものであること、感じて頂ければ、と願っております。

公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 副会長 中辻 朋博

令和元年度

日本介護支援専門員協会 災害支援ケアマネジャー養成研修

第二回 災害支援ケアマネジメント研修 in 大阪が開催されました！

令和元年 12 月 8 日（日）OCMA 地下 1 階ホールに 41 名の受講者が集まりました。今回は、一般社団法人 大阪府医師会も共催をしていただき、受講者の中に現役医師が参加しての研修会となりました。日本介護支援専門員協会でのオンライン研修を受講された方がこの災害支援ケアマネジャー養成研修を受講する資格を取得できることとなっています。



一般社団法人 熊本県介護支援専門員協会の加来 留 副会長による「熊本地震における支援活動を振り返り～平常時における支援の在り方を考える～」の講演からスタートしました。2016 年に発災した、熊本地震での被害状況、現地にて実際に行われた支援内容、支援を担う中での調整等における葛藤、災害時の写真などを通じて、被害のリアルさを実感させつつも、笑いも交えながら講演をいただきました。加来氏の講演の中で「実際の支援の経験では、自助の重要性や自立支援無くして、災害支援はできない。」との言葉が特に印象的でした。

では、実際に災害支援ケアマネジャーは何をするのか？という疑問を持たれると思います。発災した際に、被害状況の把握はもちろんのこと、事業所内外のケアマネジャー同士での情報共有、行政機関とのムダの無い連携、災害対策基本法や災害救助法の知識習得を先頭に立って、福祉の側面から復興支援を行なっていくことが必要です。また、一次避難所で配慮を必要としている要援護者の福祉トリアージを行うことで、介護を必要としている方へ適切な対応（二次避難所や福祉避難所等へのコーディネートを含む）を行うこと、災害発生までに様々な支援想定を地域の専門職等へ広く広報すること等が、目的となっています。受講者の皆さんは、そのような対応について、机上訓練における演習でケアマネジャーや地域包括支援センター等の役割の疑似体験を通じ、発災後にどのように対応すべきかの経験を積むことができたのではないかと思います。



災害が発災してから行動するのではなく、発災前から準備想定をしておき、シンプルな発想で災害支援を行なっていけると、現場での混乱も最小限に留めることができると考えられます。

このような有意義な研修機会を今後も継続的に開催して参ります。興味関心のある方は是非、次回以降の災害支援ケアマネジャー養成講座に参加されてみてはいかがでしょうか。

災害対策委員会 小出 大介

府民情報発信部の 押しかけインタビュー



今回は、泉大津支部の支部長、竹尾安代さんにインタビューいたしました。

Q 早速ですが、竹尾さんは、「ゴスペル」をされているとお聞きしましたが！そのお話からお聴きしたいです！

竹尾：はい、そうなんです。8人で『グリーンパステル（みどりの牧場という意味だそうです）』というグループを作って活動しています。趣味としてやっています。

Q はじめられたきっかけは、仕事に関係していますか？

竹尾：仕事とは関係なく、最初はヤマハの教室で習い始めたのですが、先生の都合でその教室がなくなり、その時の仲間とグループを作ることになりました。実はそのグループのリーダーは、岸和田支部の理事の城恵美さんなんですよ。

Q 偶然なんですか？引き寄せでしょうかー！？実際にはどんな活動されているのでしょうか。

竹尾：毎年、9月に和泉市ジャズストリート、10月に天満音楽祭、12月に天保山のイベントに出演しています。それから自分の勤務先の施設でもクリスマスには歌います。

Q そんなに出演されているなんて、趣味を超えていませんか？（笑）

竹尾：ちょうど、先日10周年を迎えました！

Q 10年なんて、すごいです。写真を見ても楽しそうです。でも、支部のお話もお聴きします。支部活動はどうですか？

竹尾：私は栄養士として仕事をしていましたが、平成17年に現在の施設ケアマネジャーに異動になりました。協会に入会したのもその頃です。そして、泉大津支部を立ち上げた方から次の支部長をしないかとお声かけいただき、引き受けました。現在2期目になります。

Q ゴスペルも、仕事もそして支部活動も充実されているようですが、今後の目標など教えてください。

竹尾：来年は法定外研修も充実させたいと思います。そしてゴスペルはまず15周年にもまた同じメンバーで続けていけるように頑張ります（^^）



最後に、竹尾さんからの素敵なメッセージです。

私は人との出会いをとっても大切に思っています。会員になったことで、たくさんの出会いがありました。教えていただけることで仕事の質も上がりますし、出会った人達の活動や考えを知ることによって頭が固くならないです。支部長の役割はしんどい時もあるけど、させていただけの感謝としてプラスに捉えることで結果、仕事の幅が広がります。

泉佐野支部はまだ会員も少ないので、これからぜひ増やして活発に活動していただきたいと思います。ありがとうございました。

府民情報発信部 小宮 悦子



研修センター事務局便り



〔主任介護支援専門員 更新研修制度について〕

令和元年10月18日、主任介護支援専門員更新研修制度の変更内容が大阪府介護支援専門員情報HP <http://www.pref.osaka.lg.jp/kaigoshien/care/> に掲載されております。

(変更内容)○主任介護支援専門員更新研修受講要件

- ・ 個別の受講要件について
- ・ 受講要件②の考え方

★主任介護支援専門員更新研修び受講要件が令和2年度の募集から一部変更になります。

受講要件② 法定外研修の受講

旧)主任・主任更新研修受講年度を除く毎年度4回以上かつ12時間以上受講
新)次の(ア)及び(イ)の両方を満たすこと。

(ア)受講対象期間中のいずれかの1年度に4回以上かつ12時間以上受講していること。

(イ)受講対象期間中に合計8回以上かつ24時間以上受講していること。

(※)受講対象期間

主任研修受講後1回目の更新⇒主任研修受講年度の翌年度から主任更新研修申込みまで

連続して主任更新研修を受講⇒直近の主任更新研修受講年度の翌年度から受講しようとする主任更新研修申込みまで

受講要件① 法定研修の講師・ファシリテーター

受講要件③ 研究大会等における演題発表等

受講要件⑥ 実務研修見学・観察実習の指導

旧)主任介護支援専門員の有効期間中の主任更新研修申込みまでに実績があること

新)主任研修受講後1回目の更新⇒主任研修修了日から主任更新研修申込みまでに実績があること

連続して主任更新研修を受講⇒直近の主任更新研修の修了日から受講しようとする主任更新研修申込みまでに実績があること

〔見学観察実習受入事業所の皆さまへ〕

実務研修【実習受入事業所用手引き(令和元年改訂版)】を大阪協会HP新着情報に掲載しております。

実習受入事業所用手引(令和元年 改定版)が新しくなりました。新しい手引は、ダウンロードをしてご活用ください。

※詳しくは、大阪協会HP『新着情報』をご覧ください。

〔介護支援専門員証更新研修のご案内について〕

次年度の更新研修のご案内は、例年1月に登録ご住所へ発送していましたが、今回より、お届けを今年度12月を予定しております。

届きましたら、すぐに内容のご確認いただき、お申込みください。

第 119 号 (発行日 令和元年 12 月 31 日)

編集／発行 公益社団法人 大阪介護支援専門員協会

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号

OMMビル(大阪マーチャндаイズ・マートビル)3階

TEL 06-6943-0577/FAX 06-6943-0571

HPアドレス=<http://www.ocma.ne.jp>

Mailアドレス=info@ocma.ne.jp